



横瀬の大黒様のように、今年一年笑顔で過ごしたいですね！

1 月号の記事

新年のご挨拶	2
地域づくり協議会の活動	3~4
八坂診療所長から	5
日赤奉仕団の活動	5
地区活動	6
たけのこ保育園	6
八坂小学校、八坂中学校	7~8
コミュニティ・スクール、山留の風	9~10
八坂公民館	11
話題の八坂人	12

あけまして
おめでとう
今年一年が
皆様にとりまして
良い年でありますよう
ご祈念申し上げます。
ございませす



八坂地区の人口：747人
(男375人・女372人)
八坂地区の世帯：356 世帯
(令和 4 年 12 月 1 日現在)

新年のご挨拶



八坂地域づくり

協議会長

北澤 伸夫

新年あけましておめでとうござ
います。年頭にあたり、新年のご
挨拶を申し上げます。

日頃は当協議会の活動にご支援
ご協力を賜り、心より感謝申し上
げます。昨年は3年続きの新型コ
ロナウイルス感染症の影響で、一
部イベントへの制約を余儀なくさ
れた1年でした。そのような状況
でしたが感染防止対策等に工夫を
凝らしながら事業の展開をするこ
とができました。顔と顔を合わせ、
人と人との交流を進めること
は地域づくりの原点であり、大変
重要なことです。今後この様な
環境下でも工夫を加えながら進め
てまいります。

協議会の主な活動状況をご報告
します。陳情活動につきまして
は、道路関係、砂防関係、行政関
係の各省庁へ懸案事項の早期実現
と地域の活性化について要望を行
いました。継続して取り組みを進
めてまいります。八坂ビューポイ
ント整備の活動も継続して実施
し、大滝周辺整備では、地権者並
びに北アルプス森林組合のご理解

ご協力をいただき、地元の皆さん
も参加し実施することができまし
た。夏祭りは昨年同様、開催日を
秋に移し、感染予防対策をとりな
がら、実施いたしました。約230
名の住民の皆様がご参加いただ
き、短時間ではありましたが抽選
会・花火等を楽しみ、地域間交流
ができたと思います。また、新た
な動きとして、将来の自治組織の
在り方について、協議会内に専門
部会を設置し、各地区から選出さ
れた委員に委嘱を行いスタートし
ました。持続可能な八坂地域のた
め、知恵を出し合い方向性を示し
てまいります。次に学校関係で
は、令和5年4月から小中一貫校
の義務教育学校がスタートしま
す。県下では初めての施設分離型
の一貫校であります。地域の特
色を活かし子どもたちの成長にさらに
効果が図られるよう期待したいと
思います。

八坂地区も人口減少、少子高齢
化が進む現状ではありますが、住
民の皆さんが安心して暮らせ、八
坂に誇りを持てるように取り組ん
でまいります。

本年が、皆さまにとりまして良
き年となります様ご祈念申し上げ
新年のご挨拶いたします。



新年のご挨拶

大町市八坂支所長 牛越光夫

新年あけましておめでとうござい
ます。年頭にあたり、新年のご挨拶
を申し上げます。

日頃は、市の事業や支所の事業の
推進にあたり、格別なご理解とご協
力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年の一年間を振り返りますと、
昨年も新型コロナウイルス感染症に
振り回された一年でありました。昨
年の2月中旬には、全国的にコロ
ナの感染者数も少なくなり、ようや
く普通の生活が始まると期待してお
りましたが、3月下旬頃からまた
感染者数が増え始め、行動制限は、
緩和されたものの苦悩な一年であ
りました。

新型コロナウイルス感染症が、流
行した初年度に比べますと地域の皆
様とあらゆる場面でお行き会いする
事ができ、少し「安堵感」のあった
年でもありました。特に10月29日、
30日に八坂小学校で開催された八坂
地区文化祭や文化祭一日目の夜に開
催された八坂秋まつりでは、約230人
の方が訪れ、笑顔が伺えたことが「心
温まる喜び」でありました。

さて、市では大町市第5次総合計
画後期計画の“誰もが健康で安心し
て暮らせるまち”づくりに基づき、
昭和56年に建設され地域医療の

一端を担っております「八坂診療
所」の老朽化に伴い、新たな診療所
を整備する予定で現在、八坂地域づ
くり委員会の皆様からご意見を頂
きながら候補地の検討などを進め、
年度内には、候補地の決定と基本設
計作成に向け進めております。

また、約5か年に渡り、民間の
事業者により進めてきました「明
野太陽光発電所」ですが、昨年の
10月に完成され、発電所としての
機能がスタートいたしました。

明野地区周辺には、2業者による
発電所が整備され、計画当初よ
り、それぞれの業者ごと八坂地域
づくり協議会や市・県が、“将来
に渡り安心して生活出来る”よう
に、4者による施設整備から維持
管理、発電終了後の施設撤去など
の内容を盛り込んだ協定書を締結
しており、昨年の11月に合同によ
る現地踏査を実施いたしました。
今後毎年、4者により現地踏査
を行い地域の皆様の安心安全に努
めてまいります。

最後になりますが、新しい年を
迎え“コロナ克服”に向け支所と
いたしまして、地域の各団体の
皆様と一緒に、工夫して各
種事業など進めるよう心掛けて参
りたいと考えておりますので、今
年一年、皆様と良い年になります
ようご祈念申し上げ、新年のご
挨拶とさせていただきます。

地域づくり協議会の活動から

期 日	区 分	内 容 等
11/8	明野地区太陽光発電施設合同現地踏査	・ 下記の記事参照
11/14	先進地視察（長野市中条地区） 大町市長要望活動	・ //
11/20	八坂ビューポイント整備	・ 大滝周辺整備（P4 記事参照）
12/15	第 2 回八坂地域自治組織見直し 検討部会	・ 各自治振興会の独自の活動について
12/21	第3回地域づくり委員会	・ 八坂診療所の移転について
12/15 ～12/31	年末の交通安全運動	・ 交通安全協会事業所訪問 ・ 街頭指導

明野地区太陽光発電施設合同現地踏査

11月8日(火)、協定に基づく合同現地踏査を実施しました。明野地区にある発電施設を協議会役員と業者、県、市の合同で発電施設の状況や排水施設等が適切に管理されているか確認を行い、気が付いたことや要望等を業者に伝えました。



陳情活動

11月14日(月)に大町市に対して、陳情活動を行いました。市道の改良や修繕、有害鳥獣被害対策など、12項目をまとめた要望書を牛越市長に手渡しました。

先進地視察

11月14日(月)、長野市中条の「中条地区住民自治協議会」を訪れ、視察研修を行いました。この協議会は平成22年1月の長野市への編入合併の際に旧中条村地域の振興のため立ち上げた住民自治組織で、八坂地区同様、山間部に小さな集落が点在している中条地区も、合併後、少子高齢化と人口減少が年々進行する中で、協議会として取り組んでいる地域振興活動について説明をいただきました。



八坂ビューポイント整備～「八坂大滝周辺整備」

11月20日(日)石原自治振興会、八坂地域づくり協議会共催、やさかボランティア隊の協力で、八坂ビューポイント整備「八坂大滝周辺整備」が行われました。この日に先駆け土地所有者からご理解いただき、北アルプス森林組合に木の伐採を依頼し行ったおかげでポケットパークから大滝がしっかりと見えるようになっていました。

当日はあいにくの雨でしたが、石原自治振興会の皆さんを含め30名の方が参加し整備を行いました。北アルプス森林組合から提供して頂いた木材チップを敷くために地元の小柳建設社長が重機を操縦して協力いただいたおかげで作業がはかどりました。

ポケットパークからの眺めを良くするため、滝にかかる桜の伐採も行い、大滝ポケットパークからの滝の眺めがよりよくなりました。作業終了後にはやさかボランティア隊長の北澤豊繁さんから暖かいだけのこ汁のふるまいがあり、冷えた体にはありがたい一杯でした。その後片付けを終えた後もう一人バックホーを操り片付けをしていただきました。本当にありがとうございました。本当にありがとうございます。八坂大滝の前を通る際には一度車から降りご覧になっていただきたいと思います。



八坂秋まつり開催！

10月29日(土)八坂地区文化祭初日の夕刻八坂秋まつり実行委員会による「八坂秋まつり」が行われ、お楽しみ抽選会や打ち上げ花火を楽しみました。お楽しみ抽選会では番号を読み上げるたびに一喜一憂する子どもたちの声があがる中、1等賞は警備にあたっていただいていた消防団の、平林治さん、そのあと特別に用意した実行委員長賞は八坂小学校大滝仁校長でした。



その後の花火は夜空に大きく花開き、体中に響き渡る音と共に迫力がありました。「怖いくらい迫力があつた」、「良かったね」と話す声が聞こえました。寒い中準備をいただいたスタッフの皆さんありがとうございました。

ワクチン接種と集団免疫

八坂診療所 所長 戸部道雄

COVID-19が、第8波の流行を迎えているなか、10月からオミクロン株対応ワクチン接種が始まりました。接種の呼び掛けが行われているのですが、接種率が低調です。副反応への懸念をはじめとした嫌悪感が捨て切れず、残念な状況となっています。ワクチンは、人類が有史以来、さまざまな疫病との攻防の末に生み出した、病原菌に対する最終兵器であって、ワクチンなくして現在の私たちの生活は獲得できなかったと言っても過言ではないでしょう。

未知のウイルスを完全に制圧するためには「集団免疫」の獲得が重要です。集団免疫とは、ある集団で一定の割合の人が免疫を身に付けると、そのウイルスはそれ以上に感染することが出来なくなることです。免疫には感染することで獲得する「感染免疫」と、ワクチン接種による「ワクチン免疫」があります。当然「感染免疫」が免疫力からすれば勝りますが、病原体を無毒化することにより作られた「ワクチン免疫」も病原菌に対抗する力は十分あります。集団免疫は、この両者を合わせたもので、ある社会で70～80%がどちらかまたは両方「ハイブリット免疫」を持てば感染は終息へ向かうと考えられています。11月末時点で長野県では感染者が31万人を超え県民の約16%(6人に1人)が「感染免疫」を獲得しています。この値を70%まで上昇させるには50%の「ワクチン免疫」による上乗せが必要です。

一方で死亡者は、抵抗力が弱い高齢者、基礎疾患保有者が大多数を占めています。八坂地区の高齢化率は決して低くはありません。八坂がこのような自然環境に恵まれた地であり続けるためには、これまでの先人の努力を忘れてはいけません。お年寄りを感染症から守るために若い皆さんの力が必要です。

また、最近八坂地区で発生したクラスターは教育現場を直撃しました。子どもたちへの教育はご両親にとっても大切なことです。この3年もマスクをした学校での生活に終止符をうつためにもワクチンの集団免疫の獲得は必要なのです。

オミクロン株対応のワクチンの接種は今年度中続きます。また、1回・2回目の接種も診療所で接種可能です。若いお父さん、お母さん方の接種を待っています。



日赤八坂分団の講習会が開催されました

日赤奉仕団八坂分団では、11月13日(日)八坂支所に於いて分団長を始めとして各班長さんなどが参加し講習会を開催しました。

講師に日本赤十字長野県支部の岡田委員長をはじめ、3名の方を招き、『新型コロナウィルスの3つの顔を知ろう負のスパイラル(マイナスマナ)が連鎖的に続いている状態を断ち切るために』をテーマに講演会方式で行われました。

コロナ禍の中、日赤奉仕団の活動のなかで「病気」、「不安」、「差別」の「3つの感染症」という顔があることを理解していただいて、大規模災害が起きた場合には、実際に動いていただく皆様、この事を頭の中に置いて、心と体の健康をしつかり整え免疫力をアップすることを心掛けて欲しいという内容でした。



切久保ふれあい学級



12月11日(日)切久保自治振興会では37人参加のふれあい学級を開催しました。新しい年を迎えるにあたり、お正月のしめ縄やお飾りをつくるわら細工の教室です。

新型コロナウイルス感染症対策としてマスク着用、発熱者や身体に不調のある方は控えていただき、窓ガラスを少し開けて換気、その分参加者には厚着で来ていただきました。

講師をしていただいた代表者から、事前に選りすぐったコシヒカリとアキタコマチのわらを用意していただき、その用途に応じた正月飾り「おやす」「ごぼう締め」などを指導していただきました。

初めて挑戦するとう山村留学生も、はじめは見よう見まね…？しかし少しアドバイスされるだけで、すぐにコツをつかみ上手にできるセンスの良さにびっくり、短時間ではありましたが思い思いのわら細工を完成させていました。

コロナ禍で親睦の行事はできませんが、来年こそはマスクなしの笑顔があふれる年になることを祈ります。

切久保自治振興会

勝野正巳

たけのこ保育園

やきいも会をしました！

すこやか広場のお友だちや、みさかの皆さんとやきいも会をしました。

当日は朝から、年少さんはお芋を洗う、年中・年長さんは紙やアルミホイルに包む役と分担を決めて準備をしました。年少さんは袖口をぬらしながら丁寧に洗って、年中、年長さんは、お芋が出ないように包むことが初めは難しそうでしたが、繰り返し包んでいくうちに上手になりました。皆さんの芋を包んでくれました。



お芋が焼けるまで、すこやか広場のお友だちとお布団シアターを見て楽しみ、午後からはみさかの皆さんに運動会のゆうぎを発表したり、やきいもグーチーパーの曲に合わせてじゃんけんを楽しんで遊びました。

発泡スチロールの箱に入れておいたやきいもはまだ熱々で、子どもたちも「おいしい！」「あまーい！」「あつ！」「などと言いつつ、あつな口を開けて食べていました。



八 坂 小 学 校

持久走記録会



新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、十一月十一日に、予定通り持久走記録会と授業参観を実施しました。

持久走記録会は、秋晴れの爽やかな天候のもと、一・二年、三・四年、五・六年の各力デゴリーごとにスタートし、全員無事完走することができました。昨年より実施日が一週間ほど早まりましたが、朝の活動や体育の授業などで練習を重ね、当日は保護者の皆さんの応援パワーももらい、ベストタイムを更新できた子が多く見られました。

なかよし月間に関わって、各クラスごとの授業参観では人権教育に関係した授業も行いました。

一年生

「ありがとうがいっぱい」という題で道徳の授業を行いました。授業の後半では、おうちの方へ「ありがとう」の手紙を書きました。

二年生

道徳の授業で「どうしよう」というお話をもとにして、勇気をもってよいと思うことを進んでやることの大切さを学び合いました。

三年生

学級活動で「自分や友だちのいいところ」を考え、伝え合う授業を行いました。授業の終わりに、子どもたちの笑顔がたくさん見られました。



四年生

「手話を使って話そう」というテーマで、道徳の授業を行いました。相手に心を寄せて聞くこと、話すことの大切さを学ぶことができました。

五年生

道徳の人権教育教材「権利の熱気球」を取り上げ、親子で捨ててもよい権利、捨てたくない権利について親子で一緒に考え合いました。

六年生

道徳の授業で「みんなおかしいよ」という資料を取り上げ、考えが違う人を理解すること、互いを認め合うこととはどういうことかを考え合いました。



学びの合宿

八坂小学校の5年生が一日中学校で生活をする「学びの合宿」が10月25日(火)に行われました。

朝、1年生の先輩がお出迎えをし、1時間目は全校集会で、中学生と一緒にフリースローやドリブルリレーに汗を流しました。

3時間目以降は、国語・社会・保健体育・数学と中学校の先生が授業を進めました。1年生と一緒に教科学習をしたり、2年生が授業にひよっこり顔を出したりと、中学生も小学生が気になっていたようです。

給食や清掃も中学生と一緒に、放課後は吹奏楽部とバドミントン部の活動を見学して、学びの学習は終わりを迎えました。次回は6年生が中学校で「学びの合宿」を行う予定です。



今日は、一日中学校での生活を教えてください。お世話になります。

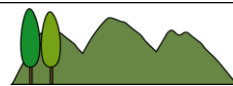


部活も楽しみ♪



1回目に全滅し、リベンジしたそばの収穫を10月31日(月)に1・2年生で行いました。学校支援コーディネーターの公民館長さんを講師に迎え、鎌を使って刈り取り、足踏み機械で脱穀をしました。リベンジで種を蒔いた時期が少し遅かったため、収穫量は期待したほどではありませんでした。今後、収穫した実を製粉し、その粉でそば打ち体験を行う予定です。

そば刈り



～小学5年生 田んぼ活動記録～



みんなで大切に世話をしてきた稲ですが、鹿に踏み荒らされてしまい・・・刈り取れる稲が少なくなってしまうしました。それでも収穫できる稲は、できるだけ鎌で刈り取りました。その後、刈った稲を学校へ一輪車などで運び、わらで束ねる作業を行ないました。「稲刈り、疲れた〜。」や「稲をくくるの難しい!〜」という声が聞こえてきて、お米作りの大変さを実感できました!

例年より少ない量ですが、自分たちで育てた大切なお米です! 1粒も無駄にせずおいしく食べられるまでもう少しです!

稲刈り 9月26日(月)



学校支援ボランティアの北澤豊繁さんや平林先生にご指導を受け、脱穀を行ないました。

例年になく少ないお米となりましたが、1粒1粒無駄にしないように脱穀機を使い、5年生の育てた貴重なお米が出来上がりました!

脱穀 10月21日(金)

5時間目に、収穫したお米の収穫祭を行ないました。例年より少ない量・・・という中で、「五平もち」をいろいろ使ってつくりました。先生や保護者と子どもたち一緒に楽しく調理することができました! 直接ではありませんでしたが、学校支援ボランティアの方々にもお礼の気持ちを伝える場面もありました。

今年は鹿の被害も受け、例年になく、とても少ない量となりました。お米づくりの厳しさや難しさ、そして何よりも携わってくれた方々への感謝の気持ちを実感できたことでしょうか。5年生のさらに成長した姿がたくましく思えた「小学5年生 田んぼの活動記録」となりました!

収穫祭 11月11日(金)

地域で子どもを育てるための

コミュニティ・スクールの集い

11月30日(水)に八坂学校運営協議会主催の「コミュニティ・スクールの集い」が開催されました。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催方法をアキツへの参集とオンライン視聴を併用しての実施となり、参集は22名、オンライン視聴参加は小中学生6名を含めて38名の参加がありました。令和5年度から施設分離型の小中一貫校(義務教育学校)として生まれ変わる「八坂小中学校」について、八坂小・中学校のそれぞれの校長先生から「広げ、深め、高め合う」学校づくりと、対話を基盤として多様性・個性を認め合い、子どもが「問い」をもって学ぶ授業実践を通じて、生涯学びを創り続ける力を養い、「自分が好き」と言える子どもを育成することを目標に掲げた経営ビジョンの説明がありました。

今回はオンライン視聴と併用のため、参加者同士の意見交換はできませんでしたが、来年度の学校運営について大勢の皆さんに伝えることができ、有意義な時間となりました。

第47回 収穫祭

11月12日、13日に今年度の収穫祭を開催しました。昨年度に引き続き、1日目にセンターにて学園生と保護者、そして農家さんが集まり感謝の式を、そして2日目に八坂小学校の体育館をお借りして個人体験の発表と太鼓・民舞などの全体発表を行いました。

感謝の式はセンターの前庭に建てられた祭壇の前にて、厳かな雰囲気の中進められました。4月からの田畑の作業を農事暦として発表し、無事たくさん収穫物があつたことを報告しました。そして学園生代表が祝詞に代わる作文を読み上げ、約8か月間見守っていただいた神様に感謝の気持ちを捧げました。



2日目は午後から発表が始まりました。全員で大きな円陣を作って気合を入れます。まずは個人体験発表。夏休み前から興味・関心があることを探し始め、体験を積んでいきました。染物や家作り、米作り、炭焼き体験と幅広い体験内容を学園生全員が発表することができました。そしていよいよ全体発表。毎日少しずつ積み重ねてきた太鼓・民舞の練習の成果を披露することもあり、学園生の間には緊張感が広がります。それでも31人全員で作りに上げた全体発表はそれぞれのセリフも演出も大好評！終了後は大変大きな拍手を頂くことができました。学園生たちも「全力出せた！」「あつという間に終わっちゃうくらい集中してた！」「それぞれ集中して取り組むことができ、今できる本気を披露できたようです。」

2日目にはたくさんの方々の地域の方々にも足を運んでいただきました。席が埋まった観客席を前に発表を披露できたことは学園生たちにとっても大変貴重な経験となりました。そして日頃からたくさんの地域の方々に支えて頂けてるからこそ、収穫祭を無事終えることができました。本当にありがとうございました。

八坂地区文化祭

八坂公民館では、関係機関や団体の皆さんによる実行委員会を組織し、10月29日、30日に小学校において文化祭を開催しました。コロナ禍が続いていますが、盛況な文化祭となり、300人を超える来場者がありました。展示作品では、小中学生や保育園児の作品をはじめ、書道、陶芸、竹細工、コミュニティスクールなど、活動の成果となる作品が並びました。



ステージ発表では、保育園のダンスや、小学校の合奏と組体操、山留太鼓の力のこもった発表に続き、絵本の朗読や歌謡舞踊、中学校吹奏楽部の演奏など、多彩で素晴らしい発表が行われました。また、arcadcompany(アノアイカンパニー)と八坂ガールズコレクションの皆さんは、初めての出演となり、ゆったりとした曲に合せ、流れるような動きのフラダンスや園児と小中学生がモデルになった可愛く素敵なファッションショーを披露していただきました。

駐車場で行われた「賑わい広場」では、手作りお菓子のお店や物産、手打ちそばの販売などが行われ、品物が売り切れるほどの賑わいを見せていました。





地域子育てセミナー「親子で凧作り」を11月26日に開催し、園児と小学生、保護者の皆さんなど39名が参加しました。

凧作りは、講師として北澤豊繁さんにご協力いただき、竹ひごと和紙でつくる和凧3種類とビニールやストローで作るビニール凧の中から自分で選んだ凧を作りました。



子ども達は、凧の設計図を見ながら、材料の加工や貼り付けなどを行い、分からないところは、保護者や講師に聞きながら凧作りを行いました。子ども達が自分で考え、工夫をしながら進めることにより、ものづくりの大変さと楽しさを体験することができた。子ども達と保護者、講師、講師の協力により、ものづくりの大変さと楽しさを体験することができた。



八坂塾「そば打ち講習会」

地元の食文化であるそば打ちの技術を継承していくため、八坂産の新そばを使ったそば打ち講習会を「ふるさと体験館」において、11月18日から5回の日程で開催しました。「八坂元氣会」の皆さんのご指導により、水廻しや練り、のし、切りなど、そば打ちの一連の手順を丁寧に教えていただきました。受講者の皆さんは、初めは練りや伸ばしで苦戦しましたが、徐々にコツをつかみ、美味しい蕎麦を打てるようになりました。





新沢 武雄さん 雅美さん 隼世くん(明野)

明野に住む新沢武雄（アラサワタケオ）と申します。家族は妻の雅美（マサミ）、息子の隼世（ジュンセイ）の3人家族です。妻は市内の介護施設、息子は八坂小学校の2年生です。八坂に来たのは息子が産まれた8年ほど前になります。子供が産まれる機会に会社を辞め、新しい環境を求めて引っ越してきました。多くの方は静けさや自然の豊かさを求めて八坂に来ると思いますが、私の最大の魅力は一軒家なのに家賃が激安の物件があったことでした。



多くの不便もありますが住めば都、今となっては八坂の生活にどっぷりです。私の仕事は、夏は市内にあるお米農家で農業を、冬は白馬のスキー場で働いています。その他週末は全国各地で行われるマウンテンバイクイベントの仕事をしています。我が家では夏はマウンテンバイク、冬はスキー、スノーボードとその魅力に虜です。この地域は四季を通して自然のかなでスポーツを楽しむことができます。これは最大の魅力でもあります。マウンテンバイクにおいては「大町マウンテンバイクトレイルクラブ」代表として里山の魅力再発見に努めています。八坂地区を含む大町の東山には無数の古道があり、マウンテンバイクで楽しむには最高のフィールドです。もっと多くの方にこの素晴らしい環境とスポーツを楽しんで貰えばと努力している最中です。主な活動は古道の再生と新たな活用、地域のゴミ拾いなどです。もっと活動の幅を広げ東山の活性化に貢献できればと思っています。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。御座います。相変わらずコロナの影響で自治会の行事の中止が続いており、少し寂しい感じがしますが、出来る事をできるところからやっていきたいとおもいます。令和5年、八坂地域の皆さんにとって素敵な一年になりますように。

中央地区編集委員
遠藤由章

